

# NEWS LETTER

No. 32  
2023.02  
SPRING



TOPICS  
01

## 男

性が育休を  
取らないなんて、  
もう古い?!

では、山形大学内の意識はどうかという…?

昨年6月22日に開催した「男女共同参画及びダイバーシティセミナー」の報告会終了後のアンケートでは、以下のようなコメントが寄せられました。

- ・男性教員の育休は、正直申し上げて、私の所属部局では同僚からひんしゆくを買うことが想定されるため、難しいように思われます。
- ・どのように、男性が育休をとりやすい職場づくりを行っていくのでしょうか？

男性が育休を取りにくい理由はなんだろう？上司が育休を取っていないから交渉がづらい？周りが取得していないから取りにくい？具体的な問題点を挙げ、対策を考えていくことで、新しい扉が開かれるのではないのでしょうか。

「産後パパ育休」（出生時育児休業）の開始！

育児・介護休業法の改正により、昨年10月から、これまでの育児休業とは別に、「産後パパ育休」の創設に加えて、育児休業を分割して2回取得することが可能となりました。それにあわせて、本学の育児休業等に関する規程も改正されました。



2015年の国連サミットで採択されたSDGsの目標5「ジェンダー平等を実現しよう」の中のひとつに、「世帯・家族内における責任分担を通じて、無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する」という項目があります。

東洋経済新報社が発行するCSR企業総覧（雇用・人材活用編）データでは、2015年度に男性の育休取得率100%(\*)を達成した会社は3社だったものの、2019年度には22社に増え、育休取得率50%を超える会社も2015年度に比べると17%増加しています。

一方で、クビを覚悟で取得するという男性もいるのも事実。

(\*) 子どもが生まれた男性社員が全員取得している率



鶴岡キャンパス事務部 主任：廣谷 駿さん  
「2歳の娘と絵本タイム」

TOPICS  
02

育児、  
全集中!!

育児休業を取得された男性職員からのメッセージ

私は妻の出産直後（令和2年10月）にパパ休暇10日間、その後娘が1歳になる前に1か月間の計2回育休を取得しました。パパ休暇取得時は人事異動と重なってしまったのですが、上司と相談して取得することができました。

子育ては想像以上に大変で、生活が子ども中心にがらりと変わりました。毎日寝不足と疲労と戦いながらの子育てでしたが、育休取得期間中は育児に集中できたので、娘のふとしたしぐさや表情に癒されながら子育てを楽しむことができました。育児は大変ですが、うれしかったことや娘の成長も夫婦で共有することができ、かけがえのない時間となりました。育休を取得できて本当によかったと感じています。

1つ心残りがあるとすれば、育休取得についてもっと早くから考えておけばよかったです。取得したいという気持ちはあったものの、詳細を調べるのが娘の誕生後になってしまい、時期や期間の調整にゆとりを持つことができませんでした。日頃から仕事と家庭の両立について自分なりのイメージをしておくことが大切だと感じています。



## 祝!! 佐々木由佳准教授が ソロプチミスト日本財団女性研究者賞を受賞

公益財団法人ソロプチミスト日本財団が実施している令和4年度の支援事業において、農学部附属やまがたフィールド科学センターの佐々木由佳准教授が「女性研究者賞」を受賞しました。

山形県からの受賞者は今回が初であり、また同賞の受賞者は、全国で1名となります。

同賞は、教育、科学技術、医療技術、環境、IT技術、介護福祉、社会福祉、伝統技術、伝統文化、文学、経済学、健康、平和などさまざまな分野で将来性のある研究をしている優秀な女性に対し、研究費500万円が支援されます。

今回申請があった研究は医療系分野が多い中、佐々木先生が申請された研究は、SDGsに特化した研究であることが高く評価されました。



中央が佐々木准教授。広島で行われた贈呈式にて

### 【受賞された佐々木先生からのコメント】

本賞に応募した研究は、農林水産業や食品加工の現場で発生する有機物（捨ててしまうと廃棄物）を簡単な処理によって肥料化し、作物生産の現場で化学肥料の代わりに使用する仕組みをつくるものです。私は、肥料の特性と土壌や水稲に対する施用効果を検討して、両現場をつなげたいと考えています。有機物を廃棄せずに有効活用することは、環境負荷を低減し、地域内の有機資源を肥料として活用することは、持続可能な作物生産の助けとなります。

本賞の贈呈式は、ソロプチミスト日本財団の年次贈呈式で行われました。式では女性研究者賞の他に、国際協力活動や地域ボランティア活動をされている方々を表彰し、支援していました。人のためになる活動をしている人を応援するというソロプチミストの皆様から、これからも頑張りなさいと応援していただいたことを、とてもうれしく思います。



## レインボーフラッグ って何?

レインボーフラッグとは、LGBTの尊厳と誇り、LGBTの社会運動のシンボルとして作られた旗です。LGBTコミュニティの多様性を表し、LGBTの権利パレード（プライドパレード）でしばしば見られます。

現在は、6色（赤、橙、黄、緑、青、紫）からなるレインボーフラッグが最も一般的ですが、当初は8色だったそうで、虹色の各色には「性、命、癒し、太陽、自然、魔術、晴明さ、精神」という意味が込められているとのこと。

なお、レインボーフラッグは、LGBTの方だけが掲げるものではなく、アライ（自身は性的マイノリティではないが、性的マ

イノリティ当事者を応援し、支える人）の方もLGBT支援の表明として掲げたり、身につけたりすることもあります。

昨年10月30日には「多様な性」がより尊重される山形をつくっていくために、共に歩くことを目的とした「やまがたカラフルパレード」が開催されました。性の多様性への理解を訴えるこうしたパレードは、山形県では初めてであり、参加者は皆さんレインボーフラッグを手に行進しました。

また、パレードとのコラボレーションとして、本学米沢キャンパス旧米沢高等学校本館（重要文化財）が、レインボーフラッグと同じ6色にライトアップされました。



### ダイバーシティ推進室からのお知らせ

『報告』・令和4年12月26日に山形大学ダイバーシティシンポジウム（加藤セチ博士顕彰シンポジウム）「山形からはばたく女性科学者～バイオニアから現在、そして未来へ～」を開催しました。

【ご案内】・今年4月、ダイバーシティ推進室のホームページがリニューアルされます。お楽しみに!

・おしゃべりしながら、ホッとできる場所として「女性研究者の集い」を毎月第3木曜日に開催しています。ご案内は、各キャンパス担当事務部を通じてお知らせしております。



山形大学ダイバーシティ推進室

〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12

023-628-4937/4939

E-mail yu-y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

URL <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/>

